
バカと仲間と学園生活

S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと仲間と学園生活

【Nコード】

N4289Z

【作者名】

S

【あらすじ】

名家『天星家』に忠誠を誓う四家があった。

己の武を誇りとする『琥槍家』

自由に生きる『空流家』

天星家に絶対の忠誠を誓う『龍院家』

そしてその三家の中で最も歴史が長い『吉威家』

この吉威家の第六十九代目頭首『吉威明久』は家から脱走し

『吉井明久』と名を変え普通の生活をしていた。

そんな中、嘗ての自分の主人と仲間が文月学園に転校してきた。

彼等はどうな生活を送るのか……

プロローグ（前書き）

こんにちわ！

書きたい衝動にかられて書き始めました。

カップリングはハーレムにするかそれとも一人にするか考え中です。

カップリングに関するご意見があればコメントをください。

よろしく願いします。

プロローグ

ある部屋に少女が居た。

その目の前には三人の少年が跪いている。

「明日……ですか？」

三人の少年の内の一人の銀髪の少年がそう尋ねた。

その少年がそう尋ねると少女は頷いた。

「ええ、転校先の文月学園の学園長『藤堂力オル様』とはお爺様が特別な

お付き合いをしていますので」

少女がそう言うで一見軽そうな少年がこう尋ねた。

「でも、何で今頃何すか？そう言う誘いって普通は学期の始まりからじゃ無いっすか？」

少年にそう言われて少女は少し考えてこう言った。

「その学園の最低クラスのFクラスに『あの人』が居る可能性があるんです」

「あの人？……まさか！」

三人の少年の中で最も体つきが良い少年がはっとした表情になると少女は頷きながらこう言った。

「いつも私達を守ってくれていたあの人……」

明久が

その言葉を聞いた瞬間体つきが良い少年は立ち上がり部屋から出ようとする。
だが

「剛堂どこに行くつもりだ」

銀髪の少年に呼び止められた。

剛堂と呼ばれた少年は銀髪の少年にこう怒鳴った。

「明久を殺しに行くに決まってるんだろっが！

あいつは姫を泣かせたんだぞ！

その愚か者の場所が分かったてのに黙ってるんのかよ！

ええ！？静人よお！」

静人と呼ばれた少年は呆れながらこう返した。

「あいつのことは確かに許せないが俺はただ姫の命令に従うまでだ。姫が奴を殺せと言うのなら殺すし放っておけと言うのなら放っておく」

「『白春』を持ってることとは邪魔するってことか？」

静人は懐に手を伸ばしていた。

剛堂も拳を構えている。
すると

「やめる馬鹿共、姫の前で暴れる気か？」

一見軽そうな少年が二人を止めた。

一見軽そうな少年は先程とは違って変わり真面目な表情になっている。
る。

「白ひまへよお……お前も邪魔すんのかよ？」

剛堂はそう言いながら白に近寄ろうとする。
すると

「うわぁっ!?!」

剛堂の体が宙を舞い落ちた。

ドンッ!

白の手には何も無い。

だが、今の状況で剛堂をどうにか出来たのは白のみだった。

静人は片手を懐に入れていた為に何かをするのは不可能。

静人や白が姫と呼んでいる少女の腕では剛堂の体を動かすことすら
難しい。

だから、剛堂に何かをしたのは白以外居ないと言うことになる。

「剛堂、少し落ち着け。

もし、姫が明久を殺せつて命じたら俺達も協力する。
でも、姫はまだ何も命令してないんだ。
俺達が先走ったところで何にもならないんだよ」

白の表情は先程と同じような軽い表情になっていた。

「姫はどうしたいんですか？明久を殺します？それとも生かします？」

少女は少しの間目を瞑りそして目を開いてこう言った。

「まずは、話を聞きます。何故彼が私達の前から居なくなったのか

……
その理由を聞きたいんです。良いですね？」

少女がそう尋ねた瞬間三人は跪きこう答えた。

「「「我等、天星家を守る四家の名にかけて天星家の命に従います」

「「

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4289z/>

バカと仲間と学園生活

2011年12月14日21時45分発行